

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念は、以前入居していた方が入居まもなく発した言葉を元にして作っている。	○	地域密着というので、今一度みんなで考えてみるのもいいのかもしれない。
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に目に入るように、入居者の方々にも見ていただけるようにと、居間の両壁に掲示しており、スタッフは常に意識しながら日々を過ごせるようになっている。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	毎月発行の施設だより「しらかばだより」や個人便りで、私たち職員の思いをお伝えしている。		
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	お陰様で、お隣さんやお向かいさんにはとても良くしていただいています。朝夕のご挨拶はもちろん、散歩時のご一言二言・野菜の育て方の御指導などでよくお話をさせて頂いている。又、1階が診療所であるので、患者さんが診察に来たときに顔見知りの入居いただいている方に話しかけてくれたりするので、その時に職員も一緒に加わってお喋りさせて頂く事があります。玄関前には大きな風車などを飾り、近所のちいさな子供さんがよく見に来てはお年寄りとお交流してくれます。		
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の方々とは、毎日の散歩や買い物でよく合いますし、挨拶もしますが、老人会や行事には参加できていません。行事といっても参加できそうなものがなく、交流はもっぱら日々の暮らしの中で、いつも通りの穏やかな生活の中で行われています。		
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域運営推進会議や施設だより等で、お手伝いできる事がないかどうかを地域に働きかけたり、行政にも認知症に関わる事で認知症講座などのお手伝いがあればさせて頂きたい事を伝えているもののまだ実現には至っていない。	○	管理者は認知症キャラバンメイトとして研修を受けさせていただいているので、地域で高齢者や認知症高齢者について伝達できればと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をするという事は、自分を見つめるとてもよい機会となっており、自己評価最中にハット気づくこともたくさん有と感じている。今年度は、昨年度の外部評価のさいに改善点とされた件について、何度も話し合いながらもまだ満足の行くようにはなっていないので繰り返し改善に向けての話し合いを続けていくつもりである。	○	昨年度の改善点は、記録の仕方が中心であるため、他のGHの記録方法なども参考にさせて頂いて、ケアプランに連動した評価しやすい記録を目指そうと思っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、前回開催からの入居状況や出来事を報告し、質問やよりよく暮らすためのアドバイスやヒントをいただくようお願いしている。又、町内に住んでいる高齢者へ私たちがお手伝いできる事などを共に考えたりする場所になっている。	○	徐々に参加者が増えてきており、最初は8名の参加者から始まり、前は10名に増え、今回は1名が新しく参加して下さることになっている。もっと参加者が増えて、しらかばが地域の中でなくてはならない場所だと思ってくださるよう、理解を得たいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	今年度は、厚生労働省と遠軽町の合同実地指導が入りました。国の意図する介護保険制度を肌で感じる良い機会でした。中々できない貴重な体験をさせて頂き、ありがたいことでした。その後のアドバイスも頂き、よりよいケアサービスを提供できるように活用させます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	一通りの知識は持ち合わせているつもりです。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない様注意を払い、防止に努めている。	言葉の虐待など、身体虐待以外にも服薬などで本人のつらい事はしない・させないを常に意識してケアしている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は見学からすでに始まっており、入居までには御本人の見学が大切であると思っている。不安を取り除いてからの入居が望ましいと思うので、できるだけ本人の見学をお願いして説明をさせていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常会話の中で表出している、又は表せずに内に隠れている不安や不満を汲み取り、心地良い毎日が実現できるように耳を・心を研ぎ澄ませているつもりである。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行の“しらかばだより”では、施設全体の出来事や暮らしを報告し、“個人便り”では個人個人の健康面や暮らしぶりを御家族にお知らせしている。預かり金の出納についても、月末締めをして領収書添付の出納帳コピーをお送りしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族の面会時には様子や変化などのエピソードをお伝えしている。全職員は全入居者の様子を常に把握している為、御家族はそれをよくわかっていてくださると見え、そのときにいる職員とよくお話をしてくださっている。その中から感じ取った心や情報を職員が共有し、御家族の思いや入居者の思いを大切にするようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議の場だけではなく、日常でも相談したり意見交換したりしている。又管理者はなるべく職員に必要と思われる情報は伝えて、向かう方向を同じにできるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	これまでも利用者の体調やADL・認知状態に合わせて、勤務体制の変更や工夫はみんなで相談してきた。今後もスタッフからの要望や管理者からの提案で、入居されている方が暮らしやすいように変わっていくと思います。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職が久し振りにあり、補充職員採用の際には一定の体験期間を設け、利用者への対応の仕方・利用者に受け入れられるか・職員は同僚としてチームとしてやっていけるか、等を検討して採用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者研修・計画作成研修・中堅職員研修・初心者研修など、北海道GH協議会の研修等の段階に適した職員を参加させており、研修報告は熱い気持ちの残っているうちに出席できなかった職員に報告説明している。説明を受けている職員も、質問したりしてOJTとして役立てている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	遠紋地区GH研修会を毎月開催している。18年7月から始まり、当初は5箇所GHの参加であったが、現在は北見からも参加があり、15箇所くらいの参加がある。決まりごと何も無い集まりでは有るが、仲間が増えていき、顔見知りが増えていくのがとても嬉しい集まりです。又、研修会のときに他のGHさんの見学ができるのが、楽しみの一つです。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	たまに食事会をしたり、管理者は職員が困っている事や不安な事などを職員同士の話からつかむように努力し、バーンアウトを起こさないように、不安感を取り除くように、助言などするようにしているつもりである。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	それぞれが自信を持って働けるように、アドバイスやシフトの工夫をしている。又、個人の努力や実績は何らかの形で評価させてもらっている。その評価はスタッフ自身も理解しており、自分磨きの原動力の役に立ててもらえたら嬉しい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談は通常は御家族からいただくが、利用できることが決定した時には、御本人の見学を頂き、本人家族共に入居を望んで頂くようにした時に入居決定としている。もちろん本人の心配事や家族の心配事、注意しなければならないことに我々が対応できるかなども重要な点である。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談の時には、相談に至った経緯をしっかりと聞き、困ったことや大変だった事などを情報としてしっかりといただくようにしている。そのことに我々がどのように関わっていけそうか、関わっていった欲しいかなどもしっかりと相談しているつもりである。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人に関わっている他のケアマネジャーや介護関係事業所との連携は大切であると思うので、御本人の担当ケアマネ等と相談しながら進めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	距離のあるところからの利用は中々そうは行っていないのが実情であるが、同じ町内から入居いただくときには何度か遊びに来ていただいたりして、入居してもいいと本人が思ってから利用することがほとんどである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩と思って尊敬を持って毎日を過ごしている。若かりし頃の思い出や恋の話、戦争の話、子供さんや孫さんの話などで盛り上がる事もある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の時にはできるだけ御家族との会話を持ち、嬉しい事を中心にしながらも、日々の生活をお伝えしている。御家族にとって嬉しい事を伝えて、「ここに入って良かった」と言ってくれることが何よりも嬉しい事です。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症発症のせいや嫁姑の関係が必ずしも良かったとはいえないご家族が、入居した事により互いを思いやることができるようになってきた事例をたくさん見してきました。主に個人便りを通じて家族を思いやる気持ち・行動をお伝えする事が私達にできる家族関係再構築のお手伝いであると思っています。これからも、嬉しい言葉や表情・楽しい言葉や表情・昔の苦労話などを通信を通じて伝えていきます。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	センター方式の情報などで得た事以外にも本人との会話などから知人友人の事が聞け、町内からの入居者などは、一階診療所の患者さんと何年ぶりの再会を喜び合う光景も時々見られ、お茶に誘ったりすることもあります。電話がかかってきて、無事を確認しあっている光景もたまに見られます。嬉しそうに話しているのを見るのは私たちも嬉しいものです。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う同士や気になる人との交流がしやすいように、廊下にソファや椅子などを設置している。診療所の玄関が見える窓際にはいつも二人が腰掛けて患者の出入りを眺めているし、たまに静かにしていいたい時等には、廊下奥のソファに座って雑誌などを眺めていたりする光景も時々見かける。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特に入院して退去となった方には、何度もお見舞いに行ったり、退院後の行き先も一緒に捜したりしたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れており、本人の発した言葉や表情から、したい事・したくない事、嬉しい事・嫌な事などを汲み取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居いただいた時に御家族にセンター方式の基本情報・暮らしの情報を記入して頂き、情報源としています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録にはそれぞれが見たことや聞いたことを丁寧に記録して次々に申し送って行き、ケアプランにつなげていく事が大切と思っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	担当制をとっており、ケアプランの基本は担当が思いを込めて立て、介護支援専門員の助言や手直しを経てプランが最終的に立てられる。その元になるカンファレンスや評価は、毎月一回の定例会議で行われている。又毎日の朝夕の申し送りでも必要な時には、プランについて話し合われている。プランは、御家族の承諾・押印を頂き、コピーしてお渡ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	新たなプラン表作成とまではいかなくても、毎日の申し送りの中で暫定的に支援計画を立てて申し送っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録については研修会などで学ぶ機会を多くもっているものの、中々思うようには書けないでいる。記録用紙も何回も変わっており、わかりやすい・書きやすい・読みやすい・前後につながっている・ケアプランに直結した記録を目指して毎日が勉強です。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性というよりも小規模であるということを生かして、今すぐ・今ならいいかも・今しかないなどの判断の元に、嬉しい事・楽しいこと・したいこと・嬉しいだろうなと思うこと・楽しいだろうなと思うこと・したいだろうなと思うこと等ができるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	急病に対応する為には消防には病歴等を伝えており、消火訓練や避難訓練などでも指導や協力をいただいている。警察には施設便りを置かせて頂いて入居者の様子を知って頂き、図書館には本好きな方が本を借りに行くなどしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを利用してはいないのだが、近くの老人保健施設やデイサービスの行事に参加させていただいたり、遊びに行ったり来たりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	働きかけてはいるものの残念ながら実現していない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者は主に、一階の診療所医師がかかりつけ医として健康面の管理をしていただいております。日常の健康維持には大きな安心感がある。又、専門医の受診が必要な時にはその都度診療所医師と連携をとりながら、紹介状を書いていただいている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院として精神科病院があり、今までに服用薬の減量相談などについていただいたこともある。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤だが看護師は職員として配置しているほか、何よりも1階が診療所である為に、医師や看護師の日常的健康管理を受けられている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時にはできるだけ見舞いに行き、状態を把握するように努めている。又家族との連絡や主治医との連絡をしながら、退院時期や退院後の相談をさせて頂いている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの指針があり、御家族からは入居いただいたときに意向を伺っているが、御本人からは入居してお互いに関係を築いてから、終末期についてそれとなく聞くようにしており、職員はその情報を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	徐々に体調が悪くなり重度化していくのは止むを得ない事であり、今できること・止むを得ない事などの見極めが大切と思っている。管理者はターミナルの取り組み報告会などに参加させて頂き、実情を知り、やがて来るであろうターミナルケアに向けて知識を得ている所である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	昨年末に、遠方にお住まいであった御家族の近くにできた新設グループホームに転居した方が居り、転居前に相手方の職員やご家族と情報伝達の機会を持ち、当グループホームでの生活を詳しくお知らせしたりしました。又転居後も尋ねて行き、その後の生活に必要な助言などをさせて頂いたりしている。		
	IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	排泄介助はADLや好みにより戸のついている個室やカーテンの個室を利用しているが、排泄中はなるべく戸やカーテンで遮り、頃合を感じて入らせていただくようにしている。又皆に聞こえるような誘い方等はしないようにお互いに注意しあっている。排泄チェック表記録の時には個人名を声に出しての確認は、本人が耳にしたら不愉快ではないかと思いつつ、つついづい言っているかもしれません。時々の注意時事項として意識している時はいいのですが、徐々に気持ちが薄れていっているかもしれません。	○	じかに見た・手伝った・報告を受けた職員がチェック表に記録する事を基本とし、他の職員に記録のお願いをする時には、小声やサインで連絡し合うことを忘れないようにしたい。
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	食事や入浴・外出・就寝・起床など、まず本人に聞いてからお手伝いさせて頂く事にしている。自分でしたいこと・嬉しいこと・好きなことを表現できない人でも、したくない事・嬉しくない事・嫌いな事はハッキリと意思表示できるので、そのことをしっかりと受け止めて接しているつもりである。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	私達はスムーズに一日が過ぎていくことを嬉しいとか良かったと思うと思うのだが、誰がスムーズなのかを大切にしているつもりです。今買い物に行きたい思いをすぐ叶えられたらその方の一日はスムーズで良かったと思うでしょうし、食べたい物が食べられたらスムーズに思いが伝わって幸せでしょうし、一番にお風呂に入りたい時にすぐ入れたら満足でしょう。そんな思いを大切にしながら、職員がやりくりをして入居者に喜んでいただけるように支援しています。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪の毛を染めたり、自分で伸びたと感じた時に美容師さんをお願いしたり、美容院に行ったりと、個人の思いや好みを大切にしている。昔からの馴染みの美容師さんに切ってもらうのは環境的に難しいと、職員が見よう見まねで切っている方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを聞いて献立を立てる事はあるのだが、準備や味付けを毎日一緒にするとはなかなか行かないのが現実である。でも食事はみんなと一緒に同じものをいただき、味付けの濃い薄いなどを批評しながら、お喋りしながら、楽しくいただいている。食事後の片付けは、下膳などではできる方は毎食後に行っていますし、食器拭きのできる方は手伝ってくれています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は毎日とはいきませんが、何かの折にはビール等を乾杯しながら楽しんでる方も居られます。タバコを吸う方は現在はいません。オヤツは午前中はコーヒーやお茶・紅茶などを皆で楽しみ、午後はお菓子などをつまみながらお茶を飲んだりします。自室に冷蔵庫をもっている方もいたり、お菓子など食べたい物を自室に用意している方もおり、医師より制限されていない限りは自由に行っています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表には水分摂取量や睡眠状態なども記入し、一目でわかる工夫をしている。メモとして、その方に特に必要な情報は追記しており、特に排泄についてはその時の体調・ADL・気力などを大切に、嫌ではないお世話をするように心がけている。スタッフが気づいた事は次々に伝えて、心地良さを追求しているつもりである。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴している方がほとんどであり、誘う時にはその方の生活パターンをよく知った上で拒否されないように工夫している。例えば、トイレに行ったときがグッドタイミングでそのまま浴室にお誘いすると気持ちよく入ってくれる方、お風呂ですよといわずに違う言葉で誘いますと気持ちよく入ってくれて草津節など歌いながら入ってくれる方、何たって早く入りたい方、一人では嫌なので誰かを誘って入りたい方など、個人の特徴をつかむようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	早寝の方、遅くまでテレビを楽しむ方、灯りを消すと眠れないのでつけたまま眠る方、真っ暗にして休む方など色々ですが、好きなようにして頂き、気持ちのよい朝を迎えられるように心遣いをしています。季節や体調に応じた室温の管理・調整は、大切な夜勤の仕事です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	読書が好きな方は図書館通い・信心深い方はお隣のお寺のお地藏様参り・足腰を大切にされる方は散歩・畑仕事をずっとしてきた方は野菜づくり・男性は皆を守るべくいざという時の為に毎夜懐中電灯準備・新聞とりや掃除等の、それぞれが自分を発揮したり安心できたりするようなことを本人に伺ったり職員が気づいたりして、活力ある毎日を過ごせる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人差はありますが、手持ちしている方はおります。欲しいものがあるとき等と一緒に買い物に良く行きます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物・外気浴・野菜収穫・草取り・図書館通いなど、それぞれがいきいたいときに出かけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個人個人にあった外出をしている。本人の希望も大切にしながら、個人差が大きいため、距離や時間などを考慮しながら出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族からお祝いの日の荷物が届いた時などは必ずお礼の電話をしていた。手紙が娘様から届く方もおり、嬉しそうに眺めておられる。スタッフに読んで欲しいとお願いして、スタッフの読む手紙を嬉しそうに聞いている姿はなんとも穏やかで見ていて心温まります。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問していただいた時には本人の部屋で過ごして頂いたり、皆のいる居間でお話して頂いたりそれぞれですが、御家族は頻回に訪問してくださっている。他の入居者とも顔見知り、御自分の家族だけでなく皆さんとお話してくれたりして頂いており、ありがたいことです。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	していない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝は新聞が来る5時頃に開け、夜は7時頃に鍵をかけている。無断で外出する方の為に出入り口の見守り職員は基本的に決めており、外出する方は必ず職員と一緒にいけるような体制は整っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中の外出見守りは、基本的に責任者が決まっており、皆さんの動きをそれぞれの職員が把握できるような体制ができている。夜は定時見回りとはならず、個人個人の時間を把握して様子を確認している。一目で見守れる所で夜勤者は待機しており、特に鍵をかけて休む方の部屋には入れないので、夜間のトイレ時などに互いに手を振り安心して下さいという気持ちを伝えるなどしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	今までの生活の中から必要なものは身近に置きたいと思うのは当たり前の事。洗剤や包丁の管理は職員ができますが、長年自分の爪を切ってきた握りバサミはいまだに手元に置いておきたい方がいらっしゃいますし、タンスの上のほうの拭き掃除に毎日使っている40cm程の棒はなくてはならないものでしょう。個別に必要なものや危険なものは判断させていただいており、馴染みの物は大切に考えさせて頂いています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	救急災害対応マニュアルがあり、いつでも全員が同じように対応できるようになっている。又服薬支援については、一日分の内服薬の準備・確認・服用時の確認と、最低3重の確認がなされる事となっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急訓練は毎年全職員が交代で参加して行われている。心臓マッサージや人工呼吸・AEDの操作の仕方なども毎年講習を受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている。	避難訓練は、毎年消防署の職員さんが来てくれて実施されている。避難訓練後は、職員も入居者も実際に消火訓練を毎年体験している。何かの時には少しでも早い対応が出来るようにと、これからも行うつもりである。又御近所の方々には、外壁に取り付けた救急ランプと非常ベルで異常に気づいた時には、何をさておいても駆けつけるとの心強い応援の言葉をいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	御家族とは入居に至る前から入居中まで、生活環境や身体環境について何度もお話をさせていただいたり個人便りで状況をお知らせしている中で、お互いの気持ちの交換をさせて頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調変化はその日の出勤職員が次々に申し送って情報を伝達しているが、広い目では、毎週看護師が看護の目で観察してくれ、注意事項や助言などを伝えてくれている。1階が診療所ということもあり、急な体調変化には診療所医師や看護師がすぐに対応してくれるので安心である。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用薬の説明書は個人ケース記録にファイルしており常に目に付くようになっている。新しく処方された薬については辞書などで調べたりして、職員全員が副作用等をわかるようにしている。受診記録はケース記録の中で別に記録しており、一目でわかるように工夫している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防として毎朝起きたらすぐ冷たい牛乳を飲む方がいたり、水分摂取を心がけたり、体の運動で腸の運動を支えたりと、個別に考えながら支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後には歯磨きやうがいので口腔内の清潔に努めている。しかし御自分で歯磨きできる方は、毎食後には歯磨きができていないのが実情です。無理にさせていただくのは難しくて・・・		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は刻んだり、お粥にしたり、軟らかめに作ったりしながら一人ひとりの為に用意している。水分摂取も、朝のうちは飲めるが午後からは摂ってくれない方には朝早くから好きなものをできるだけ飲んでいただくようにしたり、食事が摂れない時には間食を勧めたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染マニュアルはできている。流行時期以外にも、階段・玄関・トイレ・手すり・ドアノブ・スイッチなどは毎日の掃除のとき等に消毒している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日買い物に行き、買い求めている。まな板や布きんは感染流行期でなくとも毎日消毒している。特に真夏や真冬の食中毒警報時期には、刺身などの生ものは食卓にはのせていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りはお花を植えたり椅子やベンチを設置したりしては診療所の患者さんに使っていただいたりしている。特に好評なのは大きな風車で、毎年買い換えている。近所の子供さんが散歩でよく見に来てくれ、そのついでに施設の中へ上がってくださったりするので、子供好きの入居者は大喜びしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとのタペストリーは五節句そろえており、狭い廊下や居間にも季節感のある飾りつけの一役を担ってくれている。初夏からは、職員の庭から季節の花が届き、居間・食卓・トイレ・玄関等を飾ってくれ、ほっとする空間を作ってくれている。最近では、皆で作った七夕飾りが居間の窓に飾られて、話題の中心になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファで寝そべる方、仲良く肩をくっつけながら話し込む方、窓際を外を眺めながらひそひそ話に花が咲く方、パークゴルフ場を広く見渡せる食卓椅子に座って誰かのプレーを眺める方など、皆お好きに暮らしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔からの馴染んだタンスを持ち込んだり、アルバムがタンスに入っていたり、大好きな一人がけの椅子があったりと、それぞれの御家族の思いが伝わってきます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全個室には温湿度計があり、職員は季節に応じた・体調に応じた調節をしている。窓を開けたり、換気扇を回したり、洗濯物をかけて湿度調整をしたりと、季節に応じた工夫もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりは廊下や浴室・トイレに設置され、握りながら歩行してトイレまで行き、自力で用を足す方もいるのですが、見守りは忘れないようにしている。ベッド使用で転落が予想できる入居者には布団の使用をしていただいたりもしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所は便所と書いた張り紙などでわかるようにしたり、時計は居間・廊下・トイレに設置しているし、カレンダーも各居室や居間・トイレ・浴室・廊下などにたくさん貼っており、特に日に何度も行くトイレのカレンダーや時計は、日にちや時間がわかるためには有効だと感じている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関周りには椅子やベンチを置き、診療所の患者さんと交流したり外の空気を楽しむ為に使っている。診療所前の玄関は休診日には丁度いいジンギスカンの場所となり、時々楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族 ☐ ②家族の2／3くらい ☐ ③家族の1／3くらい ☐ ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えています。	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

“みんなできると楽しいし、みんなできると安心だ、できないことは助け合い、できることも助け合い、やさしい時をすごしましょう” が理念です。一人でいてもつまらないけどみんなといのが楽しくて、夜も誰かが見守っていてくれるから安心だし、私もできる事はするから皆みましょうよ！そうやって助け合いながら同居人として入居者・職員がうまくやっていけたらと思っています。賑やかで、明るくて、皆が元気になれる場所を提供したいと思っています。